

プロジェクト課題 No.2

ねぎの次世代担い手育成による産地の強化



- ・活動期間：令和6年度～令和8年度
- ・対象者：JA新みやぎあさひなねぎ部会 若手生産者5人（同部会員72人）
- ・チーム員：◎高橋怜史、上山啓一、蘇武真、進藤友恵

1 課題の背景・ねらい

【背景・ねらい】

- ・「JA 新みやぎあさひなねぎ部会（72 人、13ha）」では、高齢化により今後の産地維持が課題。 → 担い手となる**若手生産者の育成が急務**
- ・対象者 5 人は、20～40代の若手で規模拡大の意向もあることから、重点的に支援することで、産地維持に向けた中核的存在となることを期待。

【令和 6 年度 定性的目標】

- ・若手生産者の栽培技術への理解が深まる。
- ・若手生産者間でネットワークづくりの重要性が理解される。
- ・産地の現状への理解が進むとともに、経営改善に向けた技術の導入が検討される。

2 活動内容

(1) 若手生産者の栽培技術の理解促進支援

【各対象者へ個別の巡回指導（月1回以上）】



2 活動内容

(1) 若手生産者の栽培技術の理解促進支援



【栽培研修会】

農薬展示試験の結果を報告
→ 病害防除の改善に寄与

ねぎ通信 Vol.4 内部に開く ☎ 0294-77777
TEL:022-275-8410 茨城県山手農業改良普及センター 先進技術第一課
令和7年 1月15日

） **土壌診断を受けてみませんか！**
☆これまで普及センターで実施した、ねぎ畑の土壌診断で実際にあった事例を紹介いたします。皆さんのねぎ畑は大丈夫ですか？土壌分析はJAまたは普及センターで受け付けています。

<p>pHが低い！</p> <p>☆土壌のpHが低いと、生育が悪くなり、萎凋病や黒腐病などの土壌病害にかかりやすくなります。</p>	<p>pHが高い！</p> <p>☆土壌のpHが高いと、鉄やマンガンなどの微量要素欠乏が生じ、光合成の低下で葉色が濃くなります。苦土石灰の過剰施用と思われます。</p>
<p>リン酸が多い！</p> <p>☆リン酸が多すぎると、肥料の無駄だけでなく、土壌病害の防止力が下がり、連作による萎凋病が発生しやすくなります。</p>	<p>塩基バランスが悪い！</p> <p>☆苦土とカリのバランスが悪く(苦土カリ比が高い)、カリが吸収されにくい状態です。象眼や葉先枯れなどの生理障害が出やすくなります。</p>

【ねぎ通信】

- ・ 計4回発行
- ・ (内容)
 - 要注意の病虫害情報
 - 緑肥活用の提案
 - 土壌分析の有効活用 など

多方面の情報を発信！

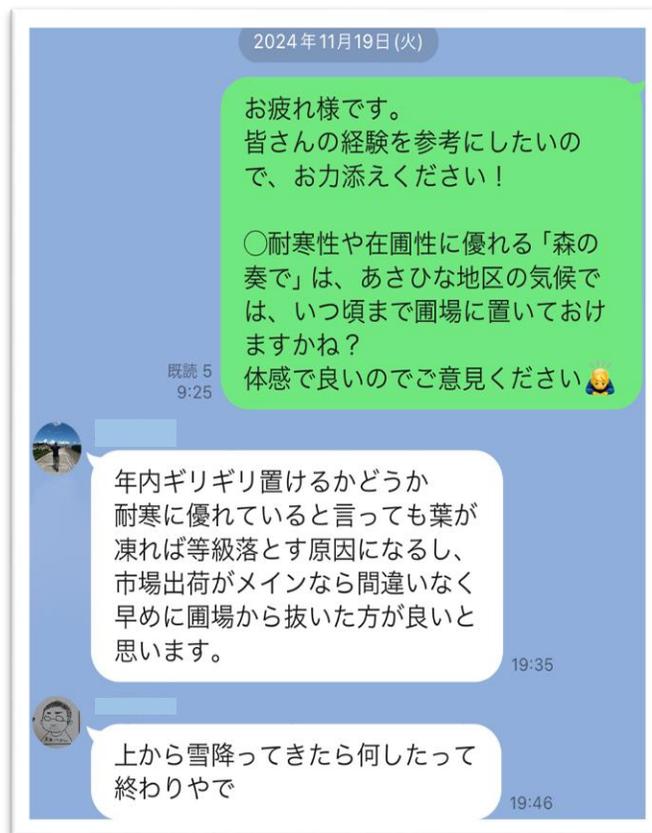
2 活動内容

(2) 若手生産者のネットワーク導入支援



【第2回情報交換会（現地検討）】

先輩農家から新規就農者へ
アドバイスする場面も



先輩農家のアドバイスを
グループ内で共有



巡回の様子や品質調査の
結果をリアルタイム発信

【グループLINEの開設】

2 活動内容

(3) 産地維持に向けた検討

営農意向アンケート

回答者 A (できるだけ詳細に記入ください)

1 あなたについて、次の項目のあてはまるところに✓を記入してください。
経営者との関係 本人 父 母 配偶者 子 その他 ()
年齢 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上
地区 富谷市 大和町 大郷町 大衡村

2 農業経営全般について、あてはまるところに✓を記入してください。
経営の種類 専業農家 兼業農家 法人
農業従事者数 1人 2人 3人 4人 5人以上
ねぎ栽培従事者数 1人 2人 3人 4人 5人以上

3 経営全体で販売額が多い順に1から3を記入して下さい。
水稲 (✓)、野菜 (), 大豆 (), 麦 (), 畜産 (), その他 ()

4 「ねぎ生産」に関して所有している機械について、✓を記入してください。
管理機 ひっぱりくん 定植機 (全自動及び半自動) 動力噴霧器
ブームスプレーヤ (ハイクリ含む) 稲刈機 反り機
その他 ()

5 あなたの現在の「ねぎ生産」について、あてはまるところに✓、カッコには数字を記入してください。
ねぎ栽培面積 長ねぎ (2) a 曲がりねぎ () a
(※ 例えば、25a は 2段5畝です)
ねぎ栽培年数 1 2 3 4以上
ねぎ作型 (複数回答可) 春どり 夏どり 単どり
単収 (10a当たり) 専任未満 1~1.5t 1.5~2t 2t以上 分からない
販売先 (複数回答可) JA 市場 直売所 小売店 その他



【営農意向アンケート調査】

対象：ねぎ部会 全72戸

【春どりネギの実証試験】

流通量が減り、単価が高い
5月に収穫できる作型を検討

【先進地視察】

視察先：(株)館島田ファームDero (角田市)
内容：機械化一貫体系の事例を視察

3 これまでの活動成果

(1) 若手生産者の栽培技術の理解促進支援

- 適期管理作業や早期病害虫防除が適切に実施され、収量が増加

	R5年		R6年
部会平均反収 (2.1 t) の到達者数	1人	➡	2人 (実績 3.2 t、2.8 t)
対象者 5 人の平均反収	1.3 t	➡	2.2 t

- 新規就農者の栽培管理技術も向上



R5.12月 (反収0.8 t)



R6.12月 (反収1.7 t)

3 これまでの活動成果

(2) 若手生産者のネットワーク導入支援

- ・ 現地検討会等の情報交換会を計 3 回開催。
- ・ 振り返り会では、対象者間で活発な意見交換が展開。
→ 着実に担い手のコミュニティ形成が進んだ。



振り返り会（1月）

(3) 産地維持に向けた検討

- ・ 「営農意向アンケート調査」を実施。 ※回収率65%（回収47戸/対象72戸）
→ 有用なデータを取得（今後の産地面積の推移、各生産者の意向など）
- ・ 先進地視察で機械化一貫体系を学び、規模拡大への機運が高まった

4 令和7年度の活動

(1) 若手生産者の栽培技術の理解促進支援

- ・巡回指導や「ねぎ通信」の発行による栽培技術向上の支援（継続）
- ・種苗メーカーと連携した品種試験の実施

(2) 若手生産者のネットワーク導入支援

- ・担い手交流と技術研鑽を目的とした情報交換会の開催（継続）

(3) 産地維持に向けた検討

- ・営農意向アンケート調査の結果を部会やJAにフィードバックし、今後の産地維持に向けて協議を進めていく。
- ・春どりねぎの実証試験を実施し、新たな作型の導入を検討する。